

まもられてるから まもりたい

次の100年の 森づくりに向けて



創作劇「いのちをまもる」～未来へ～

水害の歴史、御下賜への感謝と未来に向けた森林への思いをミュージカル形式で表現



恩賜林記念日の歌斉唱

県高等学校文化連盟合唱専門部による「恩賜林記念日の歌」の斉唱



やまなし森づくり宣言

健康の森緑の少年隊の児童4人(甲府市立羽黒小)が、「緑豊かな山梨の森を100年先の未来まで引き継いでいく」と宣言



カエデの苗木のバトンタッチ

次の100年の森づくりを託し、知事らが緑の少年隊に県の木であるカエデの苗木をバトンタッチ

皇太子殿下の御臨席を賜り 「恩賜林御下賜100周年 記念大会」が開催されました

大水害により大きな被害を受けた県土の復興のために、明治44(1911)年、明治天皇から御下賜された恩賜林。以来、県民共有の財産として、県土の保全・木材の供給・水源のかん養などさまざまな面から私たちの生活を支え、昨年、100周年を迎えました。

これを記念し、恩賜林御下賜100周年記念大会を昨年11月13日にコラニー文化ホール(甲府市)で開催しました。

式典には、天皇陛下の御名代として、皇太子殿下の御臨席を賜り、天皇陛下から託されたおことばが読み上げられました。また、緑の少年隊による森づくり宣言や100人の子どもたちが演じた創作劇などを通して、次の100年に向けた森づくりへの決意を新たにしました。



式典の様子

式典には、鹿野農林水産大臣、林業関係者など約1800人が参加



恩賜林御下賜100周年 記念功労者表彰

恩賜林の発展に貢献した個人54人、4団体を功労者として表彰。160の恩賜林保護団体に感謝状を贈呈



天皇陛下のおことばを 伝えられる皇太子殿下

皇太子殿下から、「これまで100年間にわたって、恩賜林のために関係者がたゆみなく続けてきた尽力に対して深く敬意を表するとともに、これからも、この恩賜林が「人々のための森林」として、大切に守り育てられることを願います」との、天皇陛下のおことばをいただきました

県有林の新たな取り組み

県有林は、平成15年に国際的な森林認証制度である「FSC® 森林管理認証」を取得しました。この認証は環境、社会、経済の各分野で国際的な基準に従って適切に管理されていることを意味します。認証面積は14万3千鈔(全国1位)、国内認証面積の約38%を占め、県有林から生産された木材はFSC認証材として販売されています。



FSC® 認証 コピー用紙 「やまなしの森」 (FSC® C012256)

また、地球温暖化対策の一環として、国が創設したオフセット・クレジット制度を導入。間伐などの森林整備による二酸化炭素吸収量をクレジットとして取得し、カーボンオフセットを行う企業に販売する新たなプロジェクトを展開しています。

※二酸化炭素排出量を他の場所で行った森林整備活動などにより埋め合わせること

【問い合わせ先】 森林環境総務課 TEL 055-223-1634 FAX 055-223-1636

山梨 森林総務

検索



明治40年の大水害の状況
明治40年8月、県下を襲った台風は、死者233人、破壊・流失した家屋11,943戸の未曾有の大水害をもたらしました

明治末期、相次いで発生した大水害により、山梨県は大きな被害を受け、県民は大変苦しい生活を余儀なくされました。明治天皇はこの窮状を知り、明治44(1911)年3月11日に県下の御料地約16万4千鈔を県の復興に役立てるよう本県に御下賜されました。これが県土の約3分1を占める県有林の基となっております。一般には恩賜林と呼ばれています。県では、御下賜への感謝の気持ちを後世に伝えるため、明治45年に御沙汰のあった3月11日を恩賜林記念日と決めました。また大正6(1917)年から3年の歳月をかけ、県の中心にある甲府市内、舞鶴城公園に謝恩碑を建設し、記念日には、毎年、その前で記念式典を開催しています。

恩賜林のあらまし